

しろはく活動記録

古地図と城の泉 第64号

文化九年鳥取城下大火絵図

幕府鉄砲方与力井上貫流砲術文書

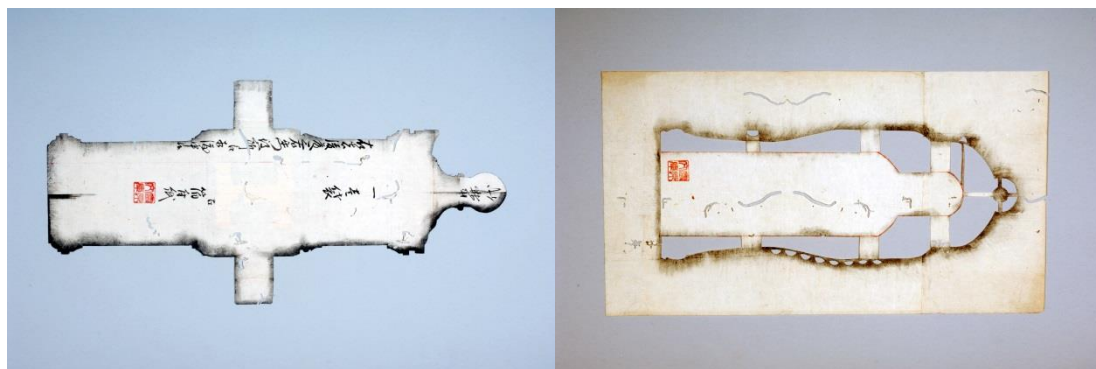
平成30年7月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査 博物館事業報告

1・富原文庫蔵井上貫流砲術資料総目録

幕府鉄砲方与力井上貫流はその役職以上に多彩な才能を発揮し、砲術流派秘伝書の集約、写本、著作、幕府所管の銃器の調査、文化5年蝦夷警備参加、幕臣徳丸が原砲術訓練と多くの活躍を行い、これまで、日本銃砲史学会銃砲史研究や講演会、板橋区教育委員会も展示会講演会で発表、江戸東京博物館の調査にも協力、その内容は『同館研究報告井上貫流左衛門文書の世界』として報告されている。今後、5年間で城以外のすべての資料を処分するため、その全容を再度公開することとした。伝来資料の一部は2代貫流が測量方であったため、国絵図や昌平坂学問所絵図、江戸割絵図等もあったがこれら砲術以外はしかるべき所にお納めした。



1) *石火矢筒 1台、19,5 x 48 x 21 cm 架台、銃身70mm直径 x 42mm 口径 x 172mm長、在銘、「文化五年蝦夷地禦防御用被仰付影筒、井上貫流象器、二挺之内」、



- 1) *西洋火攻神器説和解 全 1冊 奉徳廟命物氏選述 寛政6年9月井上貫流写
- 2) *兵禄佛狼機銃図解 全 1冊 寛政4年7月 東武台山下火砲真用隠士井上貫流誌
- 3) *手鑑 卷1－8 3冊 (表紙付古装丁)
- 4) *軍法卷 1冊 小幡勘兵衛尉一井上貫流秘伝書 (表紙付古装丁)
- 5) *新心流玉町櫓葉積傳 1冊 (中本)
- 6) *改定異風樞事集抄 井上流直謹而詳解 1冊 (横本)
- 7) 武衛流伝来川越之巻 初巻より5巻 全 1冊 (横本) ダブリか
- 8) *武衛流砲術稽古心得書 1冊 (中本)
- 9) *宇治田流砲術書 宇治田流砲術伝記 卷1－14 卷内8・9欠 4冊、井上貫流蔵書
- 10) *火矢砲録玉製道具目録 1冊 寛政10年7月 武衛流四世井上貫流
- 11) *武衛流鉄砲小筒異風種ヶ嶋秘伝聞書覚 1冊 小筒至要集異風樞事集両巻
- 12) *賊舶討碎巨砲之術稿 1冊 威遠館主人誌 井上貫流直 9月26日竹田九十九殿参
- 13) *紅毛火術秘伝鈔 1冊 寄陽志築盈長筆記
- 14) *先難抄 1冊 砲葉之巻武衛流 卒隊之巻斎藤流 寛政10年斎藤師算
- 15) *小筒至要集抄 全 1冊 井上貫流誌 (横本)
- 16) *改定至要集増个條詳解 1冊 井貫流直 (横本)
- 17) *石火矢理盡集抄 全 1冊 斎藤十郎太夫 (横本)
- 18) *寛政四年、武衛流早放五拾目玉三拾目玉千打分附、阿部豊後守岩崎弥三郎 大1冊、5月14日
- 19) *砲術修行目録 1冊 (横本) 図入り
- 20) *御物大銃之記 1冊 秘書他見無用 井上貫流 図入り
- 21) *鉄砲稽古心得 1冊 井上貫流左衛門誌 威遠館主人誌
- 22) *火砲門答 上下2冊 井上貫流直撰述 武衛流後学火砲真用隠士井上貫流直子__著
- 23) *泰西海陸必要正真火器製造書 1冊
- 24) *鉄砲稽古之説 1冊 (横本)
- 25) *松明秘方 1冊
- 26) *大国火箭陽之巻大国火箭秘伝書 2冊 井上貫流直 図入り (横本)
- 27) *鐵杖翁著 楯図解草稿 1冊 火砲実用威遠館井上貫流左衛門誌 図入り
- 28) *火砲真用 1冊 文化5年正月 武衛流伝来四世井上貫流直謹誌

- 29) 武衛流町打晒秘書 1冊 寛政元年3月*鳥銃火槍之卷 1冊 武衛流斎藤流
- 30) *徳丸原にて大筒稽古願候 1件并諸入用留 1冊 文化9年4月武州西台徳丸原
- 31) *火砲薬説草稿 1冊 東台山下隠医 井上貫流謹誌
- 32) *五拾目玉三拾目玉千放分附覚 大1冊 阿部飛驒守正允臣岩崎銀之丞 明和5年
- 33) *山井火箭秘伝書 1冊 井上貫流直 図入り
- 34) *砲家武衛氏譜 1冊 井上貫流直 (武衛氏砲術源流略伝)
- 35) *大砲鑄造唐銅調合 1冊 附京都大仏鐘日本砲術流派 嘉永3年12月
- 36) *文化7年3月 於相州鎌倉大筒火術町着覚 1冊 井上左太夫
- 37) *明何如浜兵録 佛狼機銃国字解草稿全 1冊 寛政癸巳正月 井上貫流謹和解之
- 38) 慶安3庚寅年紅毛人献上御発煩 1冊寛政7年5月 武衛流後学炮真
用隠士井上貫流直図入り 186だぶり
- 39) *肥前国雲仙道人秘授独輪車銃図説附車銃火箭説 1冊 図入り横本 井上貫流誌
- 40) *武衛流渡辺広綱元綱譜 1冊 寛政7年8月 岩崎郷左衛門時庸
- 41) *武衛流石火矢理盡集抄余滴草全 1冊 寛政6年10月井貫流撰
- 42) 慶安3庚寅年紅毛人献上御発煩 1冊寛政7年5月 武衛流後学炮真
用隠士井上貫流直図入り、187だぶり
- 43) *威遠砲和解 草稿 1冊 武備志
- 44) *佛狼機銃図解 草稿 全 1冊 井上貫流解之 図入り
- 45) *砲術算法之卷 1冊 図入り
- 46) *武衛流砲術伝受之順 1冊 文化6年3月朔日 井上貫流誌 当流伝書之順、横本
- 47) *砲烙玉 1冊 文化紀元6月 威遠井上翁述
- 48) *異風樞事集抄 全 1冊 井上貫流誌
- 49) *武衛流棒火矢制作の手續き書 1冊、(横本)
- 50) *貴砲略銘 1冊
- 51) *鳥銃答問漫草 上 1冊 井貫流答 図入り
- 52) *火砲問答 1冊 図入り
- 53) *柔和玉火矢秘伝 1冊 南蛮奇方翻訳、雲仙道人伝来 図入り (横本)
- 54) *武衛流鉄砲三目録口伝抄 1冊 忍渡辺家
- 55) *練兵5練銃頭之篇記聞 1冊 (横本)
- 56) *天明度御__仰写 1冊 天明3年正月書之 (横本)
- 57) *武衛流近火之卷四卷 1冊 井上貫流直判
- 58) *武衛流火術舂用之卷 坤 1冊 井上貫流直花押 (横本) 図入り
- 59) *数火矢大矢之卷八 1冊 井上貫流直 鉄砲機鑑抄数火矢
- 60) *鉄砲機鑑抄 玉町 参 1冊 井上貫流直 鉄砲機鑑抄遠近放玉之卷
- 61) *鉄砲機鑑抄軍卷 馬上之卷11 1冊 渡辺助右衛門尉 図入り (横本)
- 62) *鉄砲機鑑抄軍卷 城責船軍13上 1冊 渡辺助右衛門尉 図入り (横本)
- 63) *鉄砲機鑑抄軍術之卷 13下 1冊 渡辺助右衛門尉 図入り (横本)
- 64) *鉄砲機鑑抄火矢極之卷 大尾 1冊 渡辺助右衛門尉 図入り (横本)
- 65) *鉄砲機鑑抄軍之卷、足輕鉄砲之事 1冊
- 66) *自得流火矢放玉之卷1 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)
- 67) *自得流薬込薬法之卷2 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)
- 68) *自得流規矩之卷3 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)

- 69) *中川流本書中川流石火矢口伝之書 1冊 通巻11巻之内 井上貫流直花押(横本)
- 70) *中川流本書中川流末流正木流砲術之書 1冊寛政7年井上貫流直11巻の内(横本)
- 71) *中川流本書中川流大小鉄砲薬櫓小町より峠迄割付山本姓中西鉄性問答
1冊 井上貫流11巻の内
- 72) *中川流本書中川流棒火矢砲祿之書 1冊 井上貫流直 11巻の内 図入り
- 73) *中川流本書中川流鉄砲合間並長筒秘伝書 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 74) *中川流本書火薬雜種集抄方 1冊 11巻の内
- 75) *中川流本書中川流棒火矢制作之巻 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 76) *中川流本書中川流鉄砲初学不審之巻 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 77) *中川流本書中川短筒秘伝川越之巻口伝之書 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 78) *中川流本書中川短筒川越之巻 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 79) *中川流本書中川佳文之書 1冊 井上貫流直 11巻の内
- 80) *武衛流伝来川越之巻 1冊 初巻ヨリ五巻全 斎藤十郎太夫正房
- 81) *文化5年正月鉄砲稽古心得之事 1冊 克明堂主人
- 82) *大筒施用之拙意 1冊 御先手徳山石見守組同心御作事方勘定役出役井上貫流
- 83) *辰九月荷物数覚 1冊 タカシマ治御鉄砲方井上貫流
- 84) *文化9年堀田撰津守殿江井上左太夫差上る、異国船渡来風聞、 1冊
- 85) *為心得伺書 1冊 (横本)
- 86) 砲術古代伝来 1紙、行方不明
- 87) *天保9年酉9月鋸方棟梁松井山城書上古銅吹置割合 1冊
- 88) *文化5年諸事聞合帳2月17日 1冊 井上膳
- 89) *愚案内申上候書付 1冊 文化6年正月井上貫流在判 井上左太夫様
- 90) *火砲術ノ三心 1冊 火砲真用ノ原稿 (横本)
- 91) *平子龍問来処之書 1冊 明何汝浜所転也
- 92) *愚案内申上候書付 1冊 井上貫流
- 93) *文化度蝦夷地出張中記録 1冊 井上末五郎 文化5年正月
- 94) *勤書、1冊、御作事方勘定役出役 井上貫右衛門 御先手立花丹下組同心(履歴書)
- 95) 慶応4年7月関東鎮台日誌第11冊 版本、処分
- 96) *下書、砲術の拙意 1冊 御先手徳山石見守組同心御作事方勘定役出役井上貫流左衛門謹書
- 97) *竹田九十九方江大筒放方返書案 1冊 井上貫流左衛門直判 9月26日
- 98) 文化9年9月吉日松前門人竹田九十九方へ大筒放方返書草案、9月26日井上貫流 だぶり
- 99) 賊舶討碎巨砲之術、1冊、威遠館主人誌9月井上貫流左衛門直判、行方不明
- 100) *御内意奉申上候書付、控書、1冊、井上貫流左衛門
- 101) 賊舶渡来風聞二付奉願度御内意申上置候書日付草稿、1冊、 文化9年9月 井上貫流 だぶり
- 102) 賊舶渡来之取沙汰有之候二付御内意申上置奉願候書付、1冊、ダブリ
- 103) *申7月15日忍領所於久下村河原火矢玉町之覚、1冊
- 104) *文化5年辰年持場所割、1冊(北方警備担当名簿)
- 105) *独輪車銃説、1冊、寛政10年3月武衛流砲術後学火砲真用隠士
- 106) *火砲図説追加短筒架法略図全、自由架之全図、井上貫流誌1冊
- 107) *甲冑制作弁序、1冊
- 108) *タカシマ聞書、1冊、辰7月9日

- 1 0 9) * 砲銃稽古之説、1 冊 (横本)
- 1 1 0) * 鉄砲稽古之説 (草稿) 1 冊
- 1 1 1) * 無題威南塘日承平～～火砲制作・火器用法等
- 1 1 2) * 無題私議__方分之医師二御座候後砲術仕候二付去辰年正月 2 6 日召出井上左太夫～～
- 1 1 3) * 抑此西洋巨砲並架図、武衛流後学火砲真用隠士井上貫流直謹誌
- 1 1 4) * 異国船渡来之記事、三止、附警備、漂船御届書写 2 冊
- 1 1 5) * 即京都にて雲仙～～量銃之図
- 1 1 6) 文化 9 年堀田撰津守殿江井上左太夫を～～異国船渡来風聞～～井上貫流
- 1 1 7) * 今蛮舶日本に渡来するわ～～
- 1 1 8) * 百目二百目～～
- 1 1 9) * 武事小限～～
- 1 2 0) * 大筒稽古之儀～～、1 冊
- 1 2 1) * 文化 6 巳年 4 月松前奉行村垣淡路守へ差出す砲術師範～～書付、1 冊、井上左太夫手附寄力格、井上貫流左衛門
- 1 2 2) * 抑賊船撃破～～
- 1 2 3) * 或人答目一伝日用兵の法～～
- 1 2 4) * 千放用意規矩、1 冊、井貫流左衛門述
- 1 2 5) * 小筒三文目五分玉より～～
- 1 2 6) * 起請文前書之事、1 枚、寛政 3 年 1 0 月、津田左兵衛広周、井上貫流殿
- 1 2 7) * 誓盟之事、1 枚、寛政 7 年 1 月 2 8 日、富川三郎左衛門、井上貫流殿
- 1 2 8) * 起請文前書之事、1 枚、寛政 1 0 年 7 月 1 8 日、松前家中下国和多理季船、井上貫流殿
- 1 2 9) * 起請文前書之事、1 枚、寛政 1 0 年 7 月 1 8 日、松前家中竹田小三郎忠孟、井上貫流殿
- 1 3 0) * 起請文前書之事、1 枚、寛政 1 1 年 2 月 5 日、池田百輔内宇佐美又市棟治、井上貫流殿
- 1 3 1) * 起請文前書之事、1 枚、文化 5 年 3 月 7 日、立花家臣石橋忠兵衛、井上貫流殿
- 1 3 2) * 起請文前書之事、1 枚、文化 5 年 3 月 7 日、加州家臣平田彦左衛門茂清、井上貫流殿
- 1 3 3) * 起請文前書之事、1 枚、文化 6 年 3 月、佐藤富次郎政信、井上貫流殿
- 1 3 4) * 起請文前書之事、1 枚、文化 7 年 5 月、後藤郡兵衛、井上貫流殿
- 1 3 5) * 起請文前書之事、1 枚、文化 7 年 5 月 27 日、御徒夏目次郎左衛門組穂坂松兵衛常泰、井上貫流殿
- 1 3 6) * 楯秘伝巻、1 巻、明和 6 年 8 月雲仙道人吉、井上貫流殿
- 1 3 7) * 当流伝書之順、1 巻、袋付
- 1 3 8) * 諸流之名目次第不順、
- 1 3 9) 鉛玉等法序、1 巻、明和 2 年 9 月吉日岩崎弥三郎時起梅村実平殿 だぶり
- 1 4 0) * 井上貫流左衛門文書 2 6 通
- 1 4 1) * 船橋鎌倉両所打晒、武衛流依田氏、寛政元年 3 月写之、武衛流町打晒秘書
- 1 4 2) * 文化 5 年正月御用向伺書控、井上貫流蝦夷高島陣屋
- 1 4 3) * 籠明松之方、1 冊
- 1 4 4) * 石火矢理盡集目録、集奇之巻抄、1 冊
- 1 4 5) * 武衛流鉄砲秘伝、1 冊、忍渡辺家伝来之三目録青山斎藤家改定三目録
- 1 4 6) * 文化 5 年辰正月聞合控並口上伺留 1 冊
- 1 4 7) * 勤書、御勘定奉行支配御普請役井上貫流左衛門 5 5 歳、高三拾俵三人扶持
- 1 4 8) * 安治川海口御普請出来木津川海口御普請出来平面之図、1 枚、午 3 月、安治川海口御普請成功之図、4 分 1 0 間、1 5 4 x 8 1 c m、天保山台場詳細記載、大坂木津川口波除__位置見込図、2 分 1 0 間、4 2 x

60cm、海中台場記入

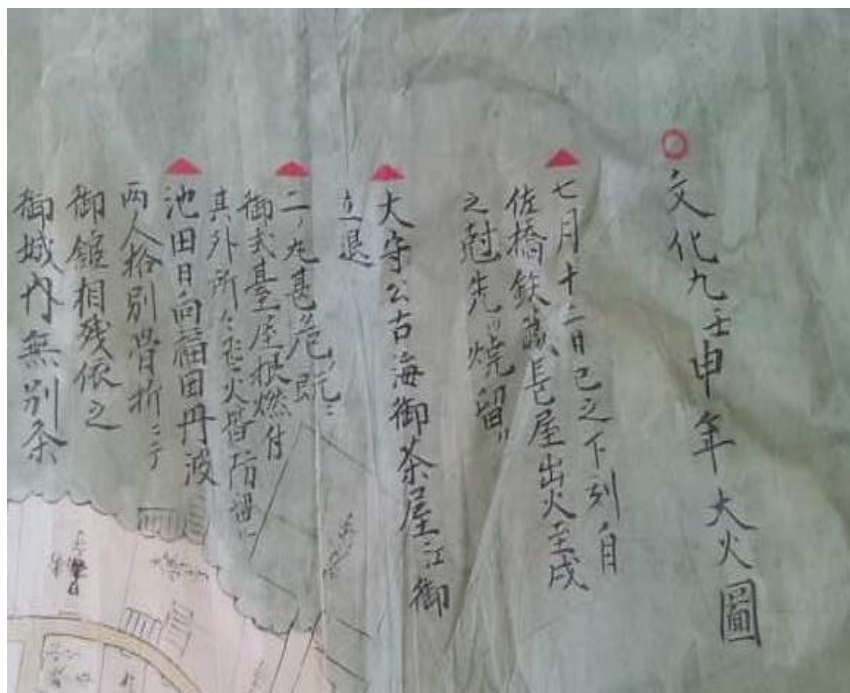
- 149) *西蝦夷地高嶼之略図、1枚、石狩湾高島陣屋絵図、為高嶋御防文化5年6月朔日着岸巡見之後図之、調役木原半兵衛、御防卒長井上貫流直、差添8人、津軽家人数者越年之場所也非御防、69x98cm、タカシマ持場所蝦夷惣家数四十九軒、惣人数百七十人、沿岸水深、津軽陣屋、狼煙台、木炮備場、舟備等記載
- 150) *井上末五郎膳旗 布製竹軸、27x38cm、1点
- 151) *井上外記流砲術小筒並三拾目玉筒〜安政5年正月、長谷川利長、田沢銀佐殿
- 152) *中直前、大筒構図6図
- 153) *武衛流異風百目玉切形、井上貫流左衛門 包み紙
- 154) *渡辺庄左衛門百目玉筒往来矢形、図、24x34cm
- 155) *武衛流1砲術、父井上貫流左衛門相伝、御普請役井上貫流左衛門〜
- 156) *六貫五百目、上州沼田城内在之、図、
- 157) *五十目玉切形、下谷御徒町三枚橋井上貫流
- 158) *大筒、台車図、
- 159) *井上貫流左衛門様、竹田九十九、1冊、大砲図入り
- 160) *入子筒子母仕組之図、2枚、普請役井上貫流左衛門
- 161) *覚、金式両之、井上貫流様
- 162) *鉄砲町打之人〜、大砲図6
- 163) *法地孕前、横紙1枚
- 164) *大砲切形、3点、文化7年3月武衛流四世井上貫流左衛門袋、文化2年竹田九十九殿袋、
- 165) *武衛流後学火砲真図隠士、井上貫流直謹誌、1枚
- 166) *大筒図、百目玉巢中五寸
- 167) *奉納絵馬写、奉獻偶言、武衛流説明、武陽隠士敬白
- 168) *伝馬町より〜出府、井上貫流蝦夷地御用御貸用文書
- 169) *図、木梓
- 170) *算法文書、平方面立方面
- 171) *鉄杖翁行状、鉄杖翁井上直子温父自述
- 172) *鉄砲中リ付、鉄砲立掛け台図
- 173) *鉄砲秘伝書、16x504cm、江戸初期古写折帳、図多数
- 174) *寛政11年6月16日異風筒百放、角八寸、成績表、甲斐庄長三郎
- 175) *打小屋大砲飛距離一覽図、松平下総守内____十郎分、
- 176) *追加、末五郎儀〜、卯十月八日井上貫流直、家内中、親類中
- 177) *量銃器十二分度1点、大筒切形2点
- 178) *1尺8寸玉文書、2通
- 179) *武衛流秘事、1寸筒火矢切形、部品等3点
- 180) *砲術上覧吹上御座内角場絵図、寛政3年5月、内題吹上御庭上覧御場所之図、亥5月19日阿部豊後守家来武衛流岡崎江右門門弟谷主膳
- 181) *荻野流鉄砲打順、寛政4年5月9日江戸表、的図入
- 182) *九数火器独輪車陣法、図
- 183) *武衛流鉄砲目当放分附、未7月20日、御書院番伏見右京
- 184) *長州征伐絵図、広島から岩国、慶応2年6月6日、96x33cm
- 185) *慶安三年紅毛人献上御発煩、横長本1冊、寛政7年5月武衛流後学炮真用隠士井上貫流直謹誌花押、御鉄砲掛御徒目付石川三太夫より密借、不許他見、大坂御鉄砲奉行署名大筒絵図15枚

- 186) *慶安三年紅毛人献上御発煩、横長本1冊、寛政7年5月武衛流後学炮真用隠士井上貫流直謹誌、御鉄砲掛御徒目付石川三太夫より密借、不許他見、大坂御鉄砲奉行署名大筒絵図15枚、花押がないため186の下書きと思われる。
- 187) *武衛流百目玉輕筒台合物注文、巳6月武衛流四世井上貫流左衛門
- 188) *大筒切形雌型、寸志之～～
- 189) *井上貫流左衛門様西山平十郎、書信、8月13日
- 190) *大砲図、27 x 42 cm
- 191) *大砲切形雌型、渋紙製3枚
- 192) *著述ノ草稿浄書未見、砲術書、3枚
- 193) *於松前製作五拾目玉狭間筒野台之、1枚
- 194) *口上之覚、書信、6月15日、井上貫流
- 195) *六匁玉操打之____、5月、井上左太夫手附井上貫流
- 196) *証章、綾織鞆眼、一具、去る文化5辰年春外寇防禦～～、文化10年8月16日井上末五郎、宛先欠
- 197) *天保六未年阿蘭陀持渡青銅銃ホーウツスル筒正寸法絵図、134 x 54 cm、井上貫流文庫印、袋、鉄砲図並切形雪洞切形、嘉永元かり渡し
- 198) *天保三辰年阿蘭陀持渡青銅砲モルチール正寸法絵図、54 x 85 cm、井上貫流文庫印
- 199) *遠矢三拾目玉ヨリ三百目玉迄形客如此、棒火矢絵図、梅村実平、14 x 81 cm
- 200) *文化5年8月15日長崎江エケレス船渡来付其節之書状御届書
- 201) *蝦夷地高嶋小屋之図、28 x 40 cm
- 202) *井上貫流様、江戸絵図袋
- 203) *蝦夷地御備場大筒野図、文化5年蝦夷タカシマ備砲図、大砲開口部拓本
- 204) *タカシマ禦防御備、
- 205) *大砲切形雌型、無名
- 206) *大砲切形、右者後藤三右衛門役所江相渡申候、
- 207) *大砲切形、三百目玉短筒惣長サ九寸七分
- 208) *大砲切形、蘇鉄之間御張付其外御絵師渡物、
- 209) *前々之書置不要
- 210) *紅葉山下御寶庫霞御張筒、28 x 120 cm、大砲絵巻
- 211) *大砲絵図、21 x 30 cm
- 212) *大砲切形、後部分欠、47 cm断筒
- 213) *大筒打ち方絵図、3図
- 214) *大筒切形、木部火鋏付切形、仕掛け5点切形、
- 215) *松平壱岐守支配石原新三郎書状、長巻き

以上は2006年1月現在しろうく 古地図と城の博物館 富原文庫所蔵品

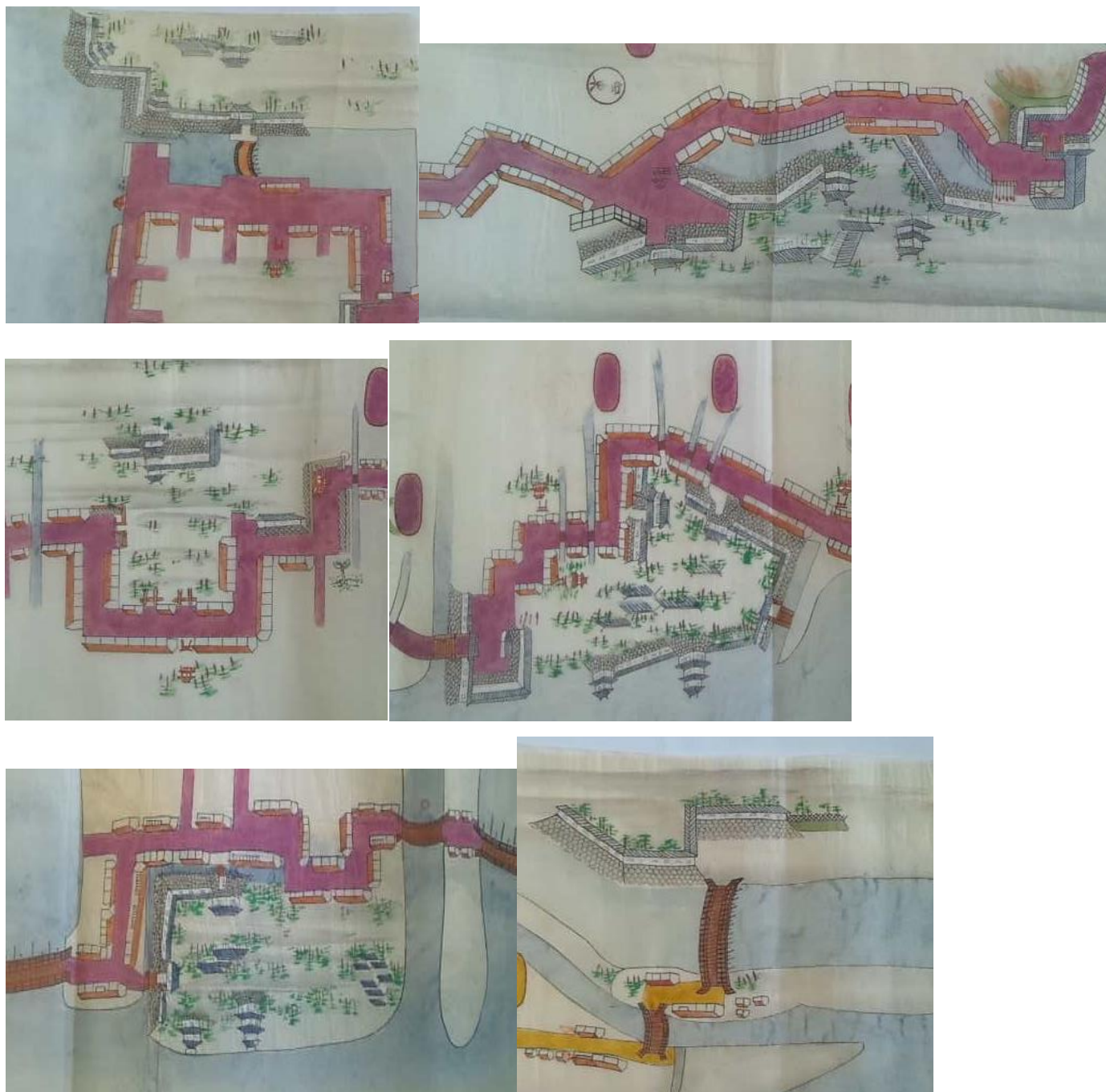
2・文化九年鳥取城下町大火絵図

文化九年壬申年大火図 七月十二日巳之下刻自佐橋鉄藏長屋出火至戌之尅先ッ焼留ル 太守公古海御茶屋江御立退 二ノ丸甚危ノ既二御式台屋根燃付其外所々飛火皆防留ル 池田日向福田丹波兩人格別骨折ニテ御館相殘依之御城内別条無 昭和27年の鳥取大火は著名だが、文化9年の記録は少ない。本絵図は火元である佐橋家を明示し、藩主の動向と城内の様子を記録する。焼失した家屋を紅で色分けし、火災の規模がわかる。155 x 118 cm。



3・六城下を經由する街道絵図。地域調査中

上下方位同一方向とし、街道順とし、城下部分を拡大した。方位不明、場所は特定中である。海沿いの街道の城跡。



街道から見る城の姿、城のみ拡大してみた。

4・熊本市が熊本城復旧基本計画・保存活用計画発表される。

熊本市は向こう20年間の復旧基本計画を発表された。平成28年の甚大な地震以降、国民全体の支援の声をもとに、全体の復旧手順、復旧過程の公開、具体的な方針、施策、取組みを定め、効率的、計画的復旧、公開、活用を定めておられます。計画では被害状況、復旧方針、手順期間、天守閣については、早くも来年秋外観復旧、2021年完了とされている。天守閣エリアの公開は2033年から37年とされている。その間、すべての櫓石垣の緻密な復元計画を発表された。建造物は地震直前の状態に戻すことを基本方針とされている。とりわけ天守閣は復興のシンボルとして早期復旧が待望されている。地震が多発している日本列島、いつ、どこの城が被災されるかわからない状況で復興の模範とされています。近時、大阪、群馬、千葉と地震が多発し、首都直下型地震もいつ起こるかわかりません。3.11では大阪の本社で会議中、9階で30cmの横揺れにあい、まさか震源地が東北とは驚きました。東海道新幹線も止まり、東京に帰れず、翌日東京に帰りましたが、上越新幹線が動かず、4時間大宮駅で座り込みました。東北のお客様の被害も膨大でその復

旧工事に駆けずり回りました。阪神大震災では関西城郭研究会の友人多くが被災されました。元住んでいた西宮のマンションも建替えとなり、今回被害があると想定されている茨木の実家も相当揺れたようです。今は関西に拠点はありませんが、北大阪の多くの城仲間の無事を念じます。ということで出張したら、翌日熊本城櫓の再度の崩落が報道された。言葉も出ない。

5・文化財支援事業

沼津市明治史料館平成30年度第1回企画展「御一新？～庶民が体験した沼津の幕末維新～」

明治維新150年、内閣官房の明治維新150年キャンペーンもあり、全国的に記念行事が開催される。それに絡み陸軍省城絵図の展示依頼が各地からいただく。沼津は7月1日から9月30日までの予定。

若松城天守閣郷土博物館平成30年度企画展「一八六八年の会津藩」

305頁に及ぶ大部の図録を寄贈いただいた。4頁に渡り若松城下絵図屏風を提供している。戊辰戦争をテーマに設定され、細密な資料が掲載されている。戊辰戦記を脚色し独逸語翻訳された錦の御旗全頁をカラーで複製、中に大坂城天守台が描かれる。(大判木版画帳である戊辰戦記と錦の御旗は所蔵済み) 錦絵、古写真、白虎隊、解説、嘆願書、藩士履歴、戊辰戦記、幕末の諸藩の状況、会津藩の部隊、会津藩の1868年を1月1日から12月まで80頁に渡り毎日追いかけている。戊辰殉難名簿、資料一覧と膨大な会津絵巻となっている。

展示会は4月から12月、9月以降は屏風の展示公開も検討されている。

戊辰戦争150年官と賊、勝と敗 7月14日から8月26日 新潟県立歴史博物館夏季企画展

長岡市関原町 0258-47-6135 戊辰戦争錦絵10点貸出し

鳥羽市教育委員会鳥羽城資料調査来館 7月20日予定

鳥羽城修理絵図、陸軍省城絵図、同下絵

新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

蝦夷闔境輿地全図 嘉永6年 木版色刷 橋本蘭斎 藤田良識門人前田憲 軸装

福井市街地図 昭和5年 中村書店

伊賀伊勢志摩三重県細見全図 明治9年 神先宗八 銅版精愛堂石田旭山門人片岡

平鹿入道成頼佐久郡一統平釣之時相認ル絵図也・平賀御領佐久郡諸士領地之外者御台所領也 昭和25年写 彩色絵図 軸装 佐久郡絵図 城砦多数記入

北條館山市街図 大正15年 6000分I 千葉石販印刷所 裏案内記、広告

京都衛戍地図 大正13年 第16師団司令部 和田忠次郎 武陽堂 12500分I 京都北部・京都南部・伏見計3枚

遼東半島之図 明治37年 山梨日日新聞附録

京都一條警察所轄全図 肉筆彩色絵図細密 二条城以北地域

京都府管内地図全 銅版色刷 京都市街全図 明治

新刻羅城国郡之図 木版 琵琶湖・小浜・丹波・大坂・郡山・伊賀上野以内地域

最新浦和市街全図 非売品 読売新聞 昭和7年

改正銅鑄上野国全図全 酒井捨彦 明治13年 銅版色刷

大広島市地図 昭和24年 木村文助 塔文社

台南市街図 昭和7年 10000分I

高野山惣絵図 木版手彩色

最新版番地入仙台市明細地図 金港堂 昭和3年

大日本職業別明細図新潟市全図 東京交通社 昭和11年

2・古典籍・古記録

信濃国伊奈郡沢座村御検地水帳 元禄3年 真田伊豆守内各連印 6尺一分以一間

◎龍印条目・天正3年12月16日武田軍軍令状写し 小泉総三郎殿 18項目指令書 25 x 26
4 cm

鹿野藩初代藩主津和野藩主亀井茲矩、政矩戦歴 永禄5年、尼子家臣から、富田城、上月城、鳥取城、高松城、朝鮮の役、関ヶ原合戦記録 慶長19年56歳死去まで 大坂陣元和5年まで記録 亀井家臣多湖家文書、

3・印刷資料

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

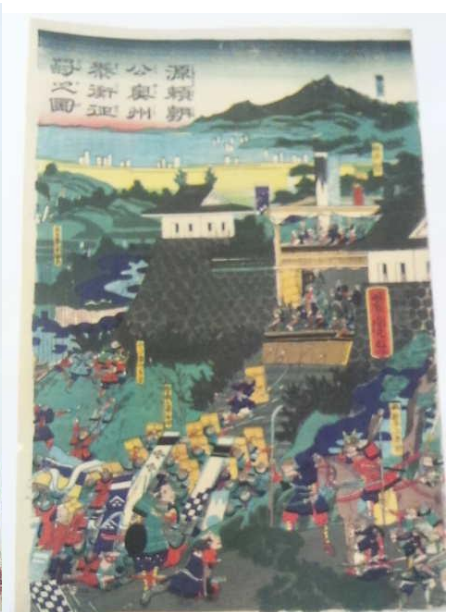
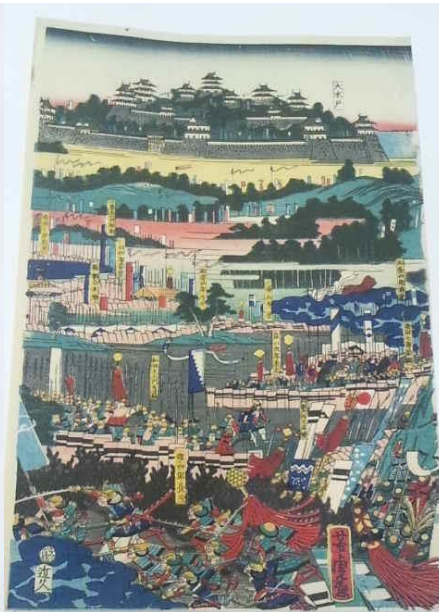
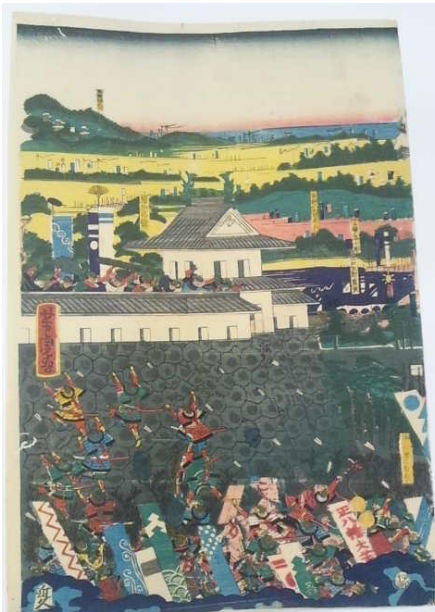
錦絵中判江戸名所四十八景四十一葵坂・三十九赤羽根 広重

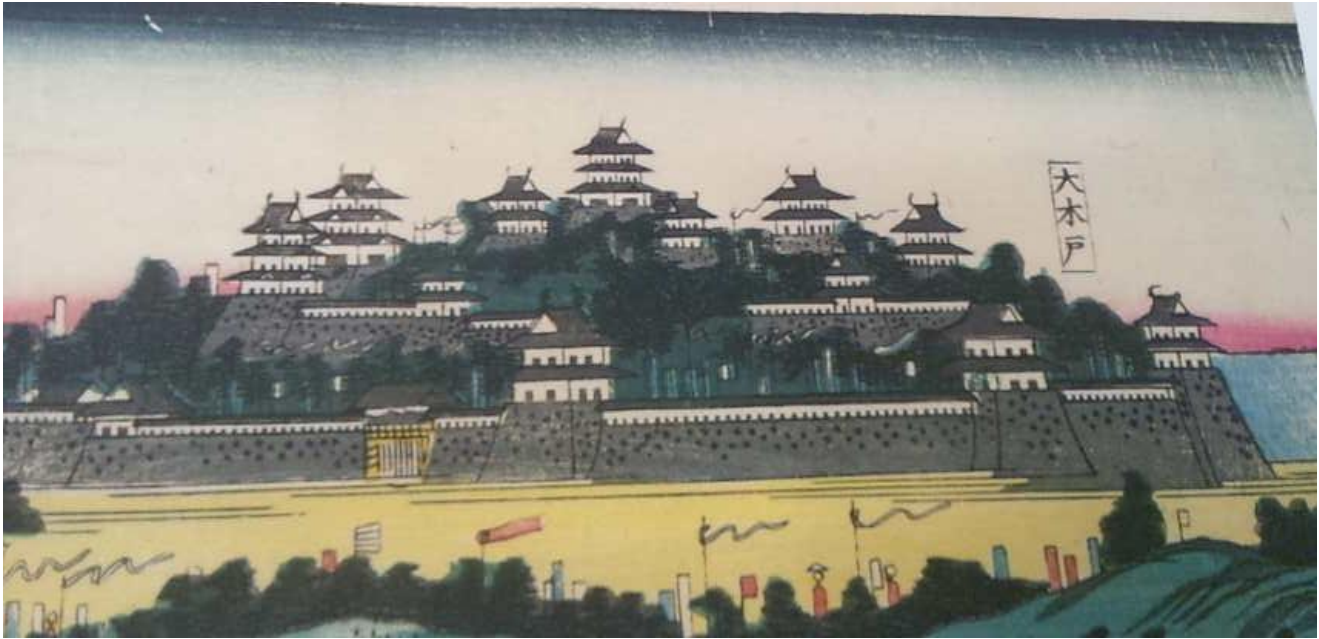
郵便報知新聞第六百五十一号大坂北大組相生町明治二年強盗、四月一六日幽霊 芳年

5・軍事資料・武器武具

6・城

錦絵源頼朝公奥州泰衡征伐之図 史実は置いといて、中央に大木戸と称する総石垣の近世山城、しかも3層櫓3基、2層櫓10基が聳える城郭錦絵としては素晴らしい構図である。右には杉目砦、左に厚加志砦が石垣づくりの近世城郭として大きく描かれる。周囲を梶原景時、北条時政、畠山重忠等名だたる武将が実名で描かれ、江戸末期鎌倉は歴史、徳川が関連する戦国は偽装の世界と描かれる。

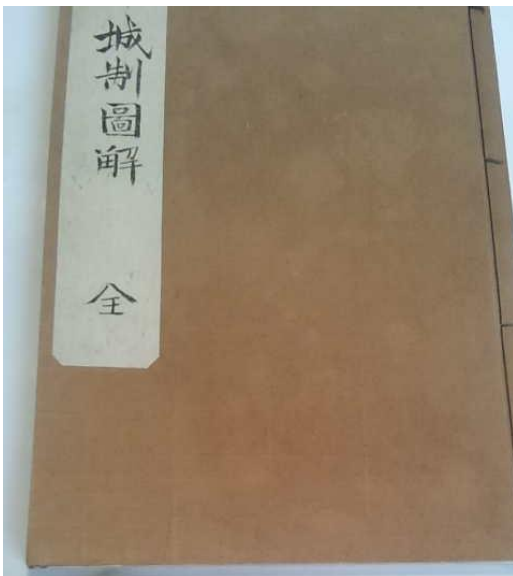




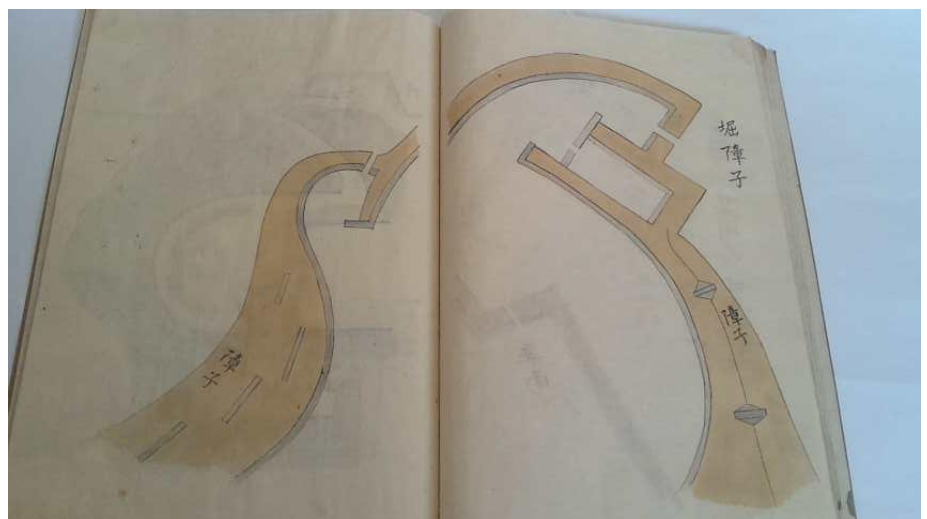
木版画昭和の姫路城(仮) 岩田健三郎 40/100 1985年原題おはよう

抜粹兵要小目録 石川 城郭之事9項目・郭虎口馬出等之事28項目・堀之事7項目・石垣之事7項目・土居之事6項目・塀之事7項目・狭間之事2項目・門之事4項目・橋之事4項目・櫓之事7項目・柵9項目・烽火台之事 文政元年田村吉兵衛花押朱印 石川作之丞殿 60本余の大量の砲術秘伝書に交じっていた。

城制図解全



享保20年 松宮俊仍 細密城郭部分図84図解説 江戸城郭用語辞典 白水先生書写上月景雄朱印 山地勢・国所城3段之堅固・縄張・城種別・虎口・馬出・蒔・横矢・櫓・堀(堀障子)・橋・塀・狭間・石垣・栗石・土居・濠・川除け・土俵・仕寄り 極美本 城制図解は複数所蔵している。何れ比較検証してみたい。

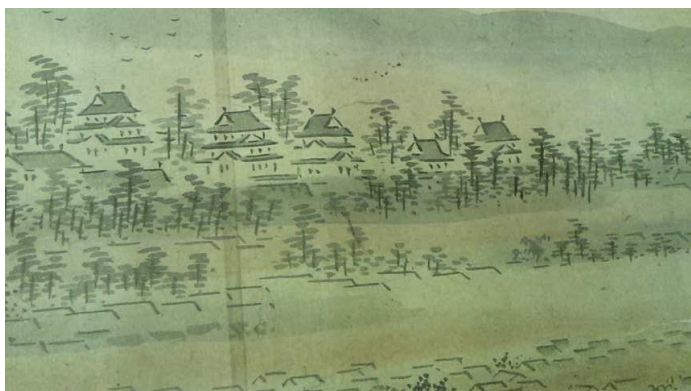


船軍備絵巻(仮) 全流船備之巻・沖ニテ相戦之巻・長汀曲浦之備・走船之敵二向備・関船並帆櫓揖名所之図・三種肴組之事・鐙餅飾真之図 彩色絵巻 刊記無

清須公園設計案・清須公園・清須城墟碑 設計案は本多静六による600分I、大正10年清須町刊、清須公園は公園設置時の工事報告と写真、清州城墟碑は碑文の解説。 本多静六の業績はいずれ全貌を明らかにした。



旧若松城地並郭内図 耶麻郡旧館村五十嵐氏 56 x 107 cm 武家屋敷石高人名記入
大阪旧図 半山筆 内題神徳爛萬図 浅竹筆 霞居半山とある松川半山の見事な大阪城下町鳥瞰図のである。大坂の町と大坂城の景観を描ききる。前後に大正5年松斎筆の軸装直しがあり、浅竹筆ともある。箱は共箱であるが、原図には見えない。38 x 288 cm。大阪城景観図としてはリアルで貴重と思われる。大阪城を描く江戸時代の3幅対や修理絵図、合戦図、錦絵等多くの大坂城絵図類を100点以上所蔵しており、機会があれば大阪城展でも開催したい。



大阪旧図に描かれた壮大な大坂城の景観

城郭絵柄小柄 喰らわんか船のような2艘が見える淀川風の河川と3層櫓2基を鋳造、水車が見えないので。あるいは、膳所城、高島城等？

鯨型香合 瀬戸柳窯河村碩山作 12H x 5 x 7 cm

錦絵坂本落城 三枚続き 芳虎 城主明智光俊天下の重器、羽柴へ譲る

城郭文献 砂上楼閣創刊号特集世田谷城・千葉市生実城跡2001・2002・千葉市猪鼻城跡他・千葉市堀之内城跡他・千葉市坊屋敷遺跡Ⅱ・清代台北城(中文)・明知城整備基本計画報告書・

舞子砲台跡・熊本城復旧基本計画・特別史跡熊本城跡保存活用計画・38冊省略・水戸城前編之上下明治33年・田中城跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・美濃小島城沿革志昭和3年彩色肉筆絵図付・史跡小島陣屋跡整備基本計画構想武門・整備基本計画・

購入見合わせ 米子城絵図152000円弘化5年2月御普請につき伺図面之下画とあるが薄葉紙であるうえ、修理書き込み等文字情報がなく絵図のみのため遠慮。

7・群馬県史料

群馬県邑楽郡大川村全図 3000分Ⅰ 昭和8年 3枚内2枚

群馬県邑楽郡伊奈良村全図 板倉沼 12500分Ⅰ 戦後

改正銅鑄上野国全図 明治13年 酒井捨彦 銅版色刷

8・その他

あとがき

1・日本の古本屋ネット登録1600点

昨年12月から、不慣れでみんなに教えてもらいながら、丁寧に登録した件数も1600点、まだ膨大な城郭文献まで手が届かず、古地図、大名書状、武術秘伝書、東京地図、大阪地図、美術品に偏っているが、日々、問い合わせを数件いただき、荷だし、内容説明、梱包、送料計算、受注、入金確認、発送と、かなり事務処理に時間を取られる。ただ、骨董市や目録が一時期であるのに、登録しておけば永久にネット掲載され、大学、教育委員会、博物館、研究家と全国の幅広い方から見ていただける。かなり、突っ込んだご要望もあり、古文書を電話口で読み上げたり、写真をメールでお送りしたりと対応に追われる。ただ、体力勝負で大量の古地図を東京へ持ち込む骨董市に比べ、年齢的には長続きしそうです。目録作成も受注、荷だし、梱包、発送と大変ですが、ネット環境にない高齢のコレクターが多く居られるので、これも継続し、ある時点でネットと目録の2本立てになるように思います。日本の古本屋を10000点にし、早く城郭文献を掲載できればと考えています。1000円、2000円の資料は一回、織豊城郭研究会で即売しました。8月の中世城郭研究会が東京であればいいのですが、あいにく、日本最大の骨董市東京ビックサイトに重なり、参加できません。頑張ってネット登録します。

2・世田谷城跡保存会

御縁があって特集世田谷城と云う冊子を発注したら、筆者であり、世田谷城保存会の会長河原英俊さんからお便りをいただいた。保存会は平成17年、マンションで毀される城跡を救済されたとのことで、冊子には東京の中世城館を紹介されています。小生にとっては類友藤井尚夫が近所にいる関係で踏査したに過ぎない中世城郭ですが、送っていただいたコピーには安中市史446pの記述として、世田谷城主吉良治氏の前任地が上野飽間であり、内出城から明応年間1492-1500年丸亀に移り廃城になったとあります。内出城と安中城については、平成28年7月16日秋間史跡保存会の依頼で講演会をしたことがあります。自宅から数分のところで、秋間みのりが丘の開発された住宅地に隣接していたことから、縄張調査を行い、構造を明らかにし、古道を発見しました。城主については関心なく、縄張調査しただけの城跡ですが、いただいた資料には安中市史編纂委員会作成の縄張図が掲載されていた。早速教育委員会に確認をお願いした。市史には山崎一の縄張図と教育委員会の2001年概念図が掲載されていました。縄張調査したのが、2016年ですので、これらは先行調査ということになります。最後に当日の資料を採録しておきます。

秋間史跡保存会講演会資料2

平成28年7月16日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

代表 富原道晴

消えた城・内出城の現状確認調査報告

内出城跡調査報告(安中市東秋間)2014年6月30日調査7月1日－22日地図資料調査

A 内出城は新幹線安中榛名駅徒歩15分、駅前住宅地に隣接する遺跡である。この地域のもっとも古い実測図は陸地測量部の正式2万分1『下室田』図幅であるが、城跡の痕跡は表示されていない。以降、2500分1国土基本図まで、この地域全体の大縮尺の測量はされていない。所在地は標高573mの石尊山の支峰307m峰から南さらに東南に延びる尾根が秋間川にぶつかる地点、秋間川支流、南の久保川と北の神水川に挟まれた舌状台地先端、馬場集落の尾根上部に構築されている。城跡としては、群馬県古城址の研究下巻に山崎一の縄張調査があり、宅地造成前に安中市教育委員会によって、主要部の発掘調査と測量がされ記録保存されている。又、破壊後の現状について、宮坂武男の報告がある。

B 山崎の調査によれば、東西100m、南北70mの主郭と西北の北防衛ラインのない東西60m、南北90mの郭、本文には説明がないが東南に第3の空堀が描かれ、第2郭としている。主郭と西北の郭の東西に帯郭、主郭尾根方向を70mの土塁と空堀で遮断、土塁上東北部は櫓台、第2郭との間に100mの空堀、空堀中央虎口西に横矢のかかる喰い違い、喰い違いの折の主郭部は櫓台としている。虎口外に喰い違いと連携して半月状の郭を指摘している。さらに、下って80mの地点に空堀を描き、以下を馬場としている。主郭西北部は一段高く造成されている。

C 1996年安中市教育委員会が宅地造成前に調査した時点では、主郭南部はすでに造成され、新たに消滅する北部、主郭中心部の発掘調査と主郭及び半月状郭の測量が実施された。顕著な遺構である主郭の西北土塁（高さ7－8m²、天端巾6－7m²、長さ80m）、櫓台（6 x 16m）、空堀（上部巾12m、堀底巾2, 5m、長さ85m）は当時現存しており、主郭東南部の喰い違い空堀と虎口は消滅している状況にあった。

発掘調査によって

- 1・西北巨大土塁内側に上巾7m、下巾1, 5m、深さ3m、長さ60mほどの第2空堀
- 2・主郭西北台地上に土塁、東内側に3m x 37mの古い空堀
- 3・西北巨大空堀は巾10m、深さ5m、中央に木橋の柱痕
- 4・主郭外側東北部に巾6, 5m、深さ3mの横堀が発掘され、西北巨大空堀80m及び、主郭東南喰い違い堀ともつながり、空堀は主郭西北から、東北、東南まで、西を除き囲われるとしている。
- 5・土塁上の東北櫓台は高さ4m、西北にも櫓台の可能性

D 宮坂武男の平成2008年調査は破壊後で、遺構は喰い違い堀の東端に残すのみである。

2014年6月30日現地調査を実施、現存遺構を確認。

宮坂の指摘通り、現地は2度にわたり、宅地造成され、主要部の遺構は痕跡をとどめていない。ただ、破壊された台地上の遺構に対し、台地壁の切岸はよく残存しており、要害の堅固さを知らしめる。現存遺構は下記の通り。

- A・喰い違い空堀東端部の空堀と主郭側及び半月堡側の切岸
- B・主郭東北部南側の切岸、西南部の切岸と西部から西北空堀への通路と思われる帯郭
- C・主郭東南部尾根の南北に武家屋敷まで台地全体に切岸
- D・半月堡東部の大手につながると考えられる古道と郭群、土塁

特に半月堡東部遺構は台地下から巾1m余りの古道が繋がり、半月堡東部を迂回して喰い違い虎口東部の大手口から主郭に入る主要通路と考えられる。

以上の調査から、内出城をまとめると

1・主郭は上下二段に別れ、上段の郭は35 x 55 mで、西北部に空堀、東南部に下段からの通路が存在、東北側には古い時期に台地上に空堀が存在した。発掘された空堀は城郭全体の遮断線と考えられ、2重堀とされたが、規模の違いにより、主郭上段のみの防衛線と考える。又、東北部に土塁が残存していたという測量結果からあるいは周囲が土塁で囲われた郭を想定できるかもしれない。本部分は壊滅しており、現状からは考察不能である。

2・主郭下段は西北の尾根を巨大空堀で遮断、中央に木橋が想定され、内側土塁中央を越えて、主郭上段空堀を迂回して、主郭東南部から主郭上段内部に入ったものと想定される。巨大土塁は東北と、西南に櫓台があり、西北尾根上の敵と東西断崖からの攻撃を防御する。主郭東南部の遮断線である喰い違い空堀はすでに消滅しているが、空堀東端の遺構から巾15 mほどの巨大な空堀が想定され、中央に虎口があり、虎口西に喰い違いがある。おそらく、土塁と空堀の存在が想定され、最も強力な防衛線となる。喰い違いからは虎口に突入する敵に対し、横矢がかかる他、虎口外部の半月堡は敵が半月堡外側を通り、喰い違いの前から横矢のかかる虎口に入るように巧みに考えられている。

3・半月堡は主郭の馬出のような役割で、現在、残存地形から其の場所を確定できる。東部断崖からの登城路は此の外側から虎口に達する。城域は西北空堀から半月堡までとして、125 x 160 mの規模である。

4・第2郭といわれる空堀は確認できないが、尾根全体に断崖面に切岸があり、おそらく、現在、小学校となる台地先端の手前まで武家屋敷等段差によって、防衛線が構築されたと思われる。武家屋敷群を含めた規模は西北の一角を含めて、台地端まで180 x 500 mに及ぶ。

内出城は城郭の中心線である舌状台地上は過去の宅地造成により、安中市の調査時点で主郭中央より東南は遺構をとどめず、新たな宅地造成により、主郭中央より西北方向の遺構、最も顕著な主郭西北の尾根を遮断する大規模な空堀と土塁は完全に崩壊し、痕跡をとどめていない。しかし、尾根の台地上は破壊されているが、台地の東西法面、壁には造成を免れた帯郭や空堀の一部、古道等が今も存在する。それらは存在するが造成された民家の所有地となり、自由に視察することは難しい。唯一、主郭東南巨大空堀の東端部は道路に面しているため、空堀や主郭側、半月堡側の切岸を明確に観察することが出来る。今回新発見の顕著な遺構は主郭東南空堀の東に存在する竹藪の中に古道、郭、土塁が残されていることである。古道は崖下で水路により消滅するが、東城外から半月堡に繋がり、本丸虎口から城内への通路と推定される。これらの遺構は安中市教育委員会の測量範囲外であり、これまで、遺構の存在は確認されていない。

縄張図面と復元想定図を何れ提供したい。

消えた城、内出城現状縄張図と推定復元図、旧地形図

第1図内出城跡現状縄張図説明。発掘調査と調査前の測量が安中市教育委員会に於いて実施されているが、調査後の宅地造成による現状図は初公開である。尾根上の破壊と尾根側面の切岸、尾根東部崖下からの古道、第2郭（従来の主郭下段）東南空堀東端部を確認した。平成26年6月30日調査。



第2図内出城跡復元図説明 内出城の測量記録に基づき、城跡の復元を検討した。呼称については従来主郭とされていた郭を主郭と第2郭に分岐。城域を主郭西北空堀から東南半月堡までとした。主郭内部に周縁土塁、第2郭の主郭周縁に西に2個、東に1個の櫓台を想定、西は崖下からの攻撃に横矢を想定、東は西北巨大土塁とともに、主郭東北部の防衛とした。山崎一の調査により、第2郭虎口に喰い違い堀と土塁により横矢を復元、第2郭虎口外の半馬出状半月堡は隠し郭による兵員の兵站基地とし、大空堀の横矢機能を強化する虎口重要施設と考えられる。主要通路は尾根道と今回見出した東方尾根下からの旧道とし、半月堡を迂回して城内へ入る物と思われる。橙は空堀、緑色は土塁、黄色は平坦部、郭である。

第3図地形図説明 内出城跡一帯は2回にわたる大規模な宅地造成により、当時の環境を想定することが困難である。原風景を求めて、所蔵の各種地形図を探索したが、第一師管迅速地図はまだ測量範囲に入っていないため、結論として、明治40年測図、43年製版、正式2万分一を検索した。城域は下室田図幅に含まれ、秋間川支流久保川と神名川に挟まれた舌状台地馬場集落の尾根上に構築され、馬場集落は当時の武家屋敷地域と想定される。現在の住宅地図では東上秋間にある、安中市立秋間小学校の裏山が馬場地域であり、城跡へとつながる。顕著な遺構である東南空堀東端遺構は秋間みのりが丘入口、巨大な石碑の少し手前、南西に位置する。図中紅色が城跡である。

図2

内出城跡
復元図

東門、空堀

土塁

主郭

土塁

東門

北門

主郭入口

空堀

二郭

南門

土塁

土塁

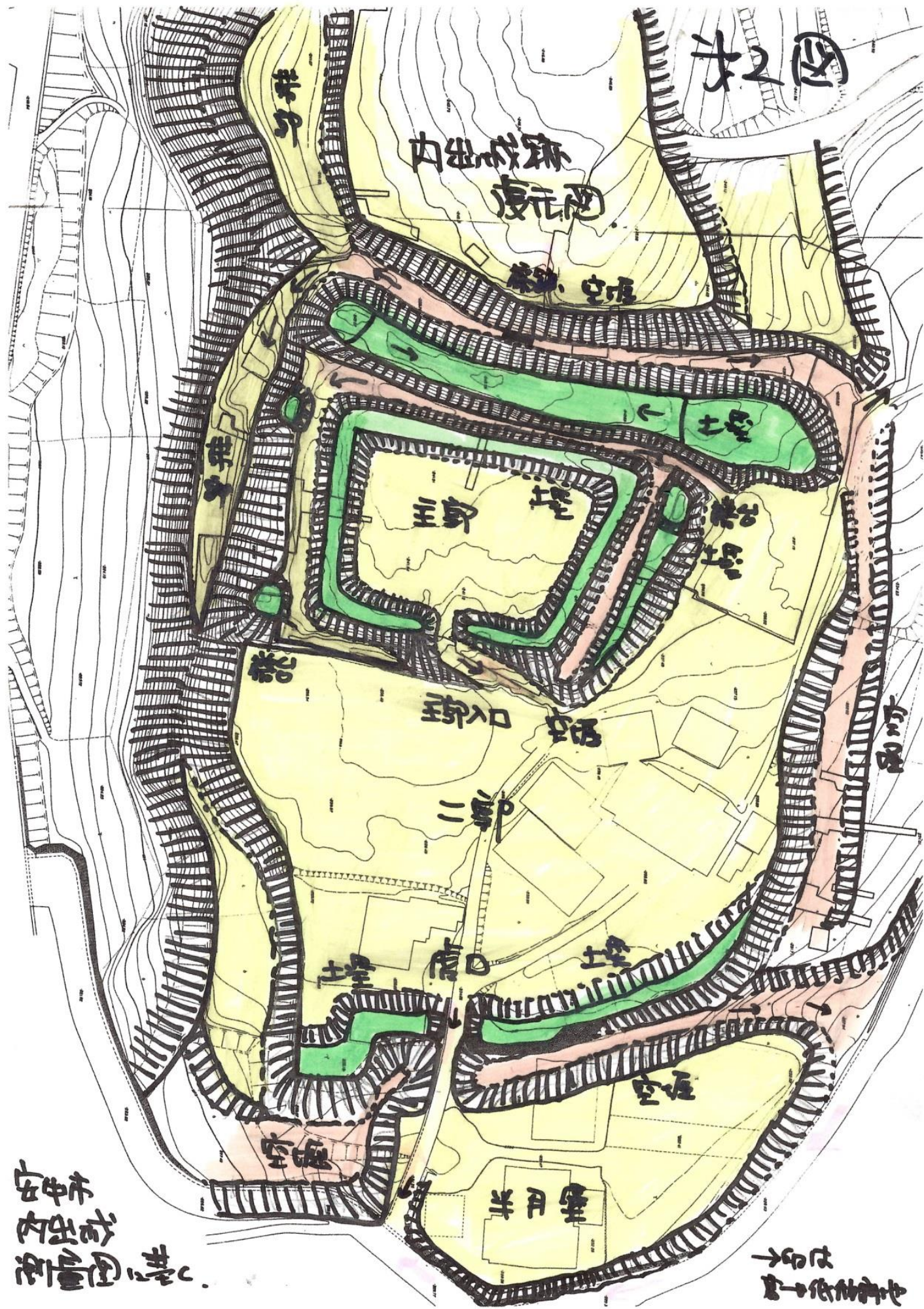
空堀

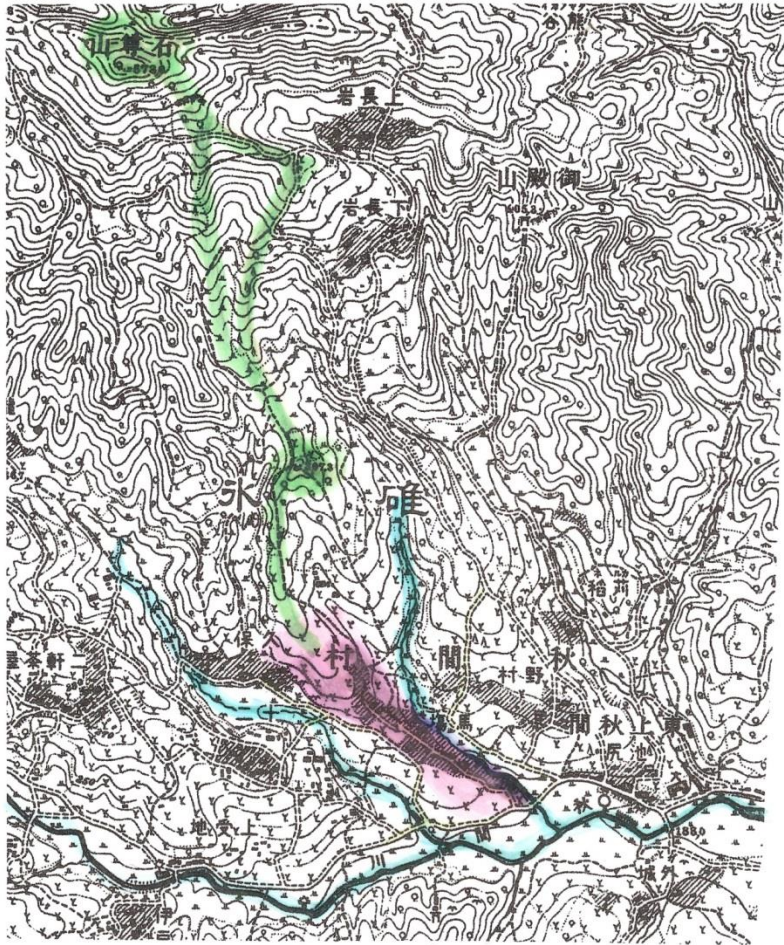
空堀

半月臺

安中市
内出城跡
測量図に基く

→印は
第一級河川





明治40年測図43年製版正式2万5千(地形図)

「下空用、図幅拡大」

内半紙位置

ちろはく

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109 群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

携帯電話 090-2722-4689(しろはく)

FAX 027-315-4689(しろはく)

Eメール shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.shirohaku.com/>

ミュージアムショップ 群馬県古書籍商組合加盟

博物館資料専門店

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴